

## 書籍の窓口

(敬称略)

### おくやみ

鈴木 健一 (90)	2/3	新生の2
千田たまゑ (95)	2/14	一心の1
加賀谷裕美 (83)	2/16	更生の2
岩野 勝 (89)	2/17	新 栄
門馬 茂 (76)	2/23	朝日の1
千葉 光男 (83)	2/24	第1新進

## 善意のこころ

(敬称略)

家族が生前お世話になったお礼に

- 鈴木 誠司 (埼玉県)  
社会福祉協議会に5万円、  
新得すこやかクラブに5万円

### 町や町の施設に

- 匿名の方  
社会福祉協議会に1万円
- 匿名の方  
社会福祉協議会に10万円
- 沢口 忠義 (宮崎県)  
町のふるさと思いやり基金に2万円
- 新得技能協会 (土谷淳二会長)  
包丁研ぎ無料奉仕での募金2,787円を社会福祉協議会へ
- 松崎 雅美 (神奈川県)  
図書館に絵本2冊

### ～有料広告を募集しています～

あなたのお店のコマースシャルをしてみませんか？  
このスペース (45cm × 8.8cm × 2枚) を広告用の枠として開放していますので、ぜひご利用ください。  
詳しくは町ホームページ、または広報広聴係 (64-0521) にご相談ください。  
掲載料は1枠1回2500円です。  
※申し込みが2件を超える場合は、抽選となります。  
申請書の提出等ありますので、ご相談はお早めに！

### 特別養護老人ホームひろね職員募集

- 正職員：15.7万～ 賞与4.4ヵ月
  - 準職員：14.7万～ 賞与0.9ヵ月
- 社会保険完備。住宅、夜勤、燃料、誕生日等の手当別途有。  
見学希望、詳細などお気軽にお問い合わせください。  
地域密着型特別養護老人ホーム ひろね  
新得町西2条南5丁目5-1 電話：67-7220



## 注目の一冊



## 図書館だより

詳しい情報などは町ホームページの図書館コーナーをご覧ください。

### 「木曜日の子ども」

重松 清

7年前、旭ヶ丘の中学校で起きた、クラスメイト9人の無差別毒殺事件。結婚を機にその地に越してきた私は、妻の連れ子である14歳の晴彦との距離をつかみかねていた。前の学校でひどいじめに遭っていた晴彦は、毒殺事件の犯人・上田祐太郎と面影が似ているらしい。この夏、上田は社会に復帰し、ひそかに噂が流れる「世界の終わりを見せるために、ウエダサマが降臨した」やがて旭ヶ丘に相次ぐ、不審者情報、飼犬の変死、学校への脅迫状。一方、晴彦は「友だちができたんだ」と笑う。信じたい。けれど、確かめるのが怖い。そして再び、「事件」は起きた…。



## 新着図書

- 一般書
  - ・マイ遺品セレクション (みづらじゅん)
  - ・極夜行前 (角幡唯介)
  - ・南極ではたらく (渡貫淳子)
  - ・美腸の教科書 (小野 咲)
  - ・がま口を作る (イシカワカオル)
  - ・いのち愛しむ、人生キッチン (松山タミ)
  - ・百歳を超えた北海道人 (小森 学)
  - ・樹木希林120の遺言 (樹木希林)
  - ・心霊電流 上下 (ステイブ・キング)
- 児童書
  - ・不死鳥少年 (石田衣良)
  - ・ニムロッド (上田岳弘)
  - ・スクエア (今野 敏)
  - ・1R1分34秒 (町屋良平)
  - ・かたわれどき (畠中 恵)
  - ・この先には、何がある？ (群ようこ)
  - ・おおあたり！ (もとしいずみ)
  - ・ススメのくらし (平野伸明)
  - ・ゆげゆげ (さいとうしほ)
  - ・いただきますレストラン (ひだのかな代)
  - ・えらいこっちゃんいちねんせい (かさいまり)



手際よく時計を修理する慶家さん

昔もいまも、「直してくれてありがとう」と言われるのがやっぱり一番嬉しいね。

「時計店一筋56年。80歳からいままでは頑張れるかな」と話すのは、けいや時計店を営む慶家憲雄さん。

出身は清水町。行商を営む家庭に生まれ、4人きょうだいの三男として育った。

中学校を卒業後、足寄町の時計店に住み込みで働き始めた。「家庭の事情で定時制しか選べなかったから、本当は新得高校に進む予定だったんだけど、ちょうど定時制から全日制に変わるタイミングで進学が叶わなくなっただけね。困っていたら、当時の中学校の校長が知り合いを紹介してくれて足寄へ行くことになったんだ」

足寄町で15年間働き、青年団活動を通じて奥さんの八重子さんと出会い、結婚。3人の女の子に恵まれた。

昭和52年に独立。地元での開業を考えたが、当時清水町には時計店が4軒あったことから、新得町でけいや時計店を開いた。「昔の時計は手巻きや自動巻



慶家 憲雄さん (72歳) 昭和町内会

きといった機械仕掛けだったんだよ。振動でネジが緩んですぐに壊れてしまうから、特に工事現場で働く人は修理に持っていくことが多かったね。国鉄があった頃は懐中時計の修理も多かったなあ。家の掛け時計も薪ストーブのすすで真っ黒になるから、年末はその掃除依頼が多くて寝ないで働いてたよ。真っ白にして返すからお客さんには『うちの時計はこんなに白くないわ。よその時計じゃないの？』ってよく言われたね(笑) 昔の機械仕掛けからいまの電池式に変わるときは、まだ電池式の時計を直せる人が少なかった。僕はそれも直せたから、ありがたがられたね」

数え切れないほど多くの時計を直してきた慶家さんだが、時の流れとともに時計店の役割も変わったと話す。

「携帯電話が普及して腕時計は一気に売れなくなっただね。それに、いまの腕時計は簡単に壊れ

ないし、たとえ壊れても直して使う人は少なくなっただね。車でどこにでも買に行けるし、インターネットもあるからね。『インターネットで腕時計を買ったけどベルトが合わない』と言ってベルトを直しに来るお客さんはいらなくなった」

店内のショーケースに飾られた腕時計は少なく、カタログから選んでもらうことが多いとのこと。

「昔はいかに直すかという時代だったけど、いまは新しいものを作る時代。機械仕掛けの時計がまた流行ってきてるから作り手の職人は増えてるけど、直す技術を持つ人は少なくなっただね。メガネのレンズも昔は大きかったけど、技術が進んで小さくなった。そう思ったら、また大きいのが流行り出したりね。時代の流れについていけない(笑)」

最後に、お店をやっている嬉しかったことを聞いた。

「『ありがとう』とお礼を言われることかな。商売だから当たり前のことをしてるだけなんだけども」と慶家さんが話すと、八重子さんが「お父さん、褒められるの好きだからね」とほほ笑んだ。



ふるさと

No.427

昔もいまも、「直してくれてありがとう」と言われるのがやっぱり一番嬉しいね。

きといった機械仕掛けだったんだよ。振動でネジが緩んですぐに壊れてしまうから、特に工事現場で働く人は修理に持っていくことが多かったね。国鉄があった頃は懐中時計の修理も多かったなあ。家の掛け時計も薪ストーブのすすで真っ黒になるから、年末はその掃除依頼が多くて寝ないで働いてたよ。真っ白にして返すからお客さんには『うちの時計はこんなに白くないわ。よその時計じゃないの？』ってよく言われたね(笑) 昔の機械仕掛けからいまの電池式に変わるときは、まだ電池式の時計を直せる人が少なかった。僕はそれも直せたから、ありがたがられたね」

ないし、たとえ壊れても直して使う人は少なくなっただね。車でどこにでも買に行けるし、インターネットもあるからね。『インターネットで腕時計を買ったけどベルトが合わない』と言ってベルトを直しに来るお客さんはいらなくなった」